



Analisis Perkembangan Kognitif Bayi dilihat dari Reaksi Ekspresi terhadap Onomatope Buku Bergambar

Andhini Putri Pratami Rustandi[✉]

Japanese language education and Literature study, International Studies, Kanazawa University

email: andhiniputripr@gmail.com

Info Artikel

Sejarah Artikel:

Diterima September 2019
Disetujui Oktober 2019
Dipublikasikan Oktober 2019

Keywords:

Buku cerita ,bayi, ekspresi, reaksi.

Abstrak

Penelitian ini bertujuan untuk mengetahui ekspresi dan reaksi bayi melalui buku cerita bergambar. Data yang digunakan dalam penelitian ini adalah buku cerita bergambar dalam bahasa Jepang sebanyak 3 jilid. Sedangkan untuk objek penelitiannya sendiri adalah bayi usia 8 bulan, dengan memperhatikan ekspresi dan reaksinya. Metode penelitian yang digunakan dengan cara menceritakan (memperdengarkan) 3 buku tersebut sambil mengamati reaksi objek. Lalu, hasil yang didapatkan adalah, dari ketiga buku tersebut masing-masing terdapat ekspresi dan reaksi yang berbeda. Lalu yang paling menarik perhatian objek adalah pada kata “yoisho-yoisho”, “musha-musha”, dan suara binatang seperti “hoo..”.

Abstract

This study aims to determine the expression and reaction of baby through the picture in story book. The data in this study are 3 volumes of story books in Japanese. As for the object of the research is an eight month old baby. The research method used is by storytelling the three books to the baby while observing the reaction from the baby. The result is that the baby gives reaction to the sound of onomatopoeia like “yoisho-yoisho”, “musha-musha”, and animal sounds like “hoo...”.

© 2019 Universitas Negeri Semarang

[✉] Alamat korespondensi:
Gedung B4 Lantai 2 FBS Unnes
Kampus Sekaran, Gunungpati, Semarang, 50229
E-mail: chie@unnes.ac.id

e-ISSN 2685-6662

はじめに

背景と目的

本稿の背景は馬場他(2017)が残されている課題に基づく調査である。馬場他(2017)は絵本情報サイト「絵本ナビ」に読者が書き込んだレビューを分析の対象とした。絵本ナビは絵本および児童書約66,500タイトルに関する出版社、著者、あらすじなどの基本情報の大量のレビューが書き込まれる絵本の情報サイトである。そこで、子どもの認知発達の反応を引き出しやすい絵本の特徴を解明し、子どもの認知発達の反応の観測頻度が大きい絵本と小さい絵本の比較分析を行った。しかし、この研究では、実際に子どもが絵本を読んだ際の反応を観察しないため、問題が残っている。

古市(2014)によると、絵本のオノマトペは絵本のストーリーやイメージを表現する時は、身体で表現されるまではゆっくり時間を要するが、オノマトペの表現は聞いてみてすぐに身体が反応する違いがあると述べている。つまり、オノマトペは子どもの反応を引き出しやすい表現ということである。

以上の背景をふまえて、本研究は実際に子どもが絵本を読んだ際の反応を観察する目的とする。先行研究の枠組みとその分類を用い、オノマトペが出現される絵本を通して、子ども(乳幼児)認知発達の反応を観察してみたい。また、どの部分に赤ちゃんがよく動きが出てくるのか。どの言葉に赤ちゃんが興味を持っているのを考えていきたい。

先行研究

子どもの反応について、レビューの記述や絵本の内容を調べると、「絵本の特徴を示す子どもの反応・年齢組」の反応が共通する絵本を、子どもの反応の種類によって、より細かく分類した。本調査の対象は0歳であるため、「じっと」の絵本の分類に当てはまると考えている。

「じっと」の絵本では、(意味は理解していないかもしれないが)絵をじっと見る・音をじっ

と聞くという分類が説明されている。「じっと(0~1歳)」の絵本のパターンでは、「オノマトペ等の簡単な言葉とシンプルな絵のみの絵本」、「顔や表情に焦点を当てた絵本」、「シンプルではっきりとした色使いであったりカラフルであったりする絵本」といったパターンが見られる。(馬場他(2017 p.435))

また、馬場他(2017)は反応の観測頻度の多い絵本と小さい絵本を比較した結果は、以下の表にまとめる。

表1 反応の観測頻度の多い絵本と小さい絵本の比較 (馬場(2017)作成)

「絵本の特徴を示す子どもの反応・年齢組」の反応	「子どもの反応」の詳細分類	「絵本の特徴を示す子どもの反応・年齢組」の年齢	子どもの認知発達の反応の観測頻度の大きい絵本と小さい絵本の比較	子どもの認知発達の反応の観測頻度の小さい絵本の改善案
じっと(0~1歳)	(意味は理解していないが)絵をじっと見る・音をじっと聞く	0歳または1歳のいずれかの年齢	子どもの認知発達の反応の観測頻度の大きい絵本は、キャラクターの表情にインパクトのある絵と簡単な言葉のみの、シンプルな絵本となっている。これに 対し、子どもの認知発達の反応の観測頻度の小さい絵本である見えない いぼあそびは、仕掛け絵本の要素があるため、若い子供にとっては理解し にくく、じっと集中することには向かない。	仕掛け絵本ではなく、普通のシンプルな絵本にする

上記のことをふまえて、本研究で対象とする3冊の絵本がどれぐらい子どもの反応と動きが引き出せる(観測頻度が高い絵本)のかどうか試みる。

調査概要

調査データ

本稿では、3冊のオノマトペ絵本を対象データとする。その絵本のタイトルは「ぱんだちゃん」「ちゅちゅちゅちゅちゅ」と「だっだあ〜」である。その3冊の絵本の内容は簡単にまとめる。

- ① 「ぱんだちゃん」：この本はぱんちゃんの毎日の生活について描かれている。食べて、遊んで、うんちして、眠る、天真爛漫なパンダの姿がみられる。
- ② 「ちゅちゅちゅちゅちゅちゅ」：この絵本では「ちゅちゅちゅちゅちゅちゅ」と走るお母さんねずみのあとを「ちゅちゅちゅちゅちゅちゅ」とまねして走る子ねずみたちとそのほかの動物が描かれている。この絵本は動物の鳴き声(擬音語)がシンプルに描かれている。

- ③ 「だっだあ〜」：この絵本は、赤ちゃんのことばあそびの絵本である。この中で、ほぼ意味のないオノマトペが共通言語として読まれている。ストーリーもなく、ただお化けたちの顔とその表情を表す擬音語である。この本は赤ちゃん言葉で描かれているように考えている。主な内容は顔や表情に焦点を当てた絵本である。

調査対象者と方法

本調査の対象者は0歳(8ヶ月)1名である。反応の対象は子どもの顔と動きである。方法は、親が3冊の絵本を読み聞かせながら、乳幼児の反応を観察する。観察期間はバラバラであるが、この3ヶ月の近くである。その間、2〜3回ぐらい同じ本を読み返してみた。絵本を読み聞かせるときに、ゆっくりで普通の声色と表情をする。

絵本の内容の分析

内容の紹介

ここでは、3冊の絵本の内容がどちらに当てはまるのかについて分析してみる。分析を踏み込む前に、3冊の絵本には、どのような内容にオノマトペが使用されているのか、絵本のページずつ簡単にまとめる。

絵本名	ストーリーとオノマトペの使用
① ぼんだちゃん	たけをむしゃむしゃぼんだちゃん(p1) たくさんたくさん むしゃむしゃ(p2) ずっとずっと むしゃむしゃ(p3) ときどききのぼり よいしょよいしょ(p4) きのうえでも むしゃむしゃ(p5) こんどはうんち ぶりぶり(p6) うんちのあとはまたむしゃむしゃ(p7) そしたら ごろんごろんしたくなちゃって(p8) ごろんごろんしてたらねむくなちゃって(p9) ママとおやすみぼんだちゃん(p10)

② ちゅうちゅう うちゅちゅ ちゅ	ちゅうちゅうねずみさん(p1) ちゅちゅちゅちゅちゅ(p2) ふうふうぶたさん(p3) ふうふうふうふう(p4) ぶくぶくさかなさん(p5) ぶぶぶぶ(p6) とことことたぬきさん(p7) ととととと(p8) ほーほーふうろうさん(p9) ほっほっほー(p10)
③ 赤ちゃんのことばあそび愛蔵版だっだあー	だっだあー だらっだらあー だっだあー(p1) ぎーじいーじー ぎーじいーじー ぎりぎり ぎりぎり ぎっじー(p2) ほっほー ほっほー ほーほーほー ー ー ー ーん(p3) へげへげの へげへげへげん へげへのへ(p4) ぶっひゃっひゃあー ぶっひゃっひゃあー ぶっひゃっ ぶっひゃっ ぶっひゃっ ー ー(p5) たらんたらんたらんた らんたらんた らあーん たらあーん(p6) べっれー べっれー べろべろ べー べー べれべれ べれえー(p7) むちゅっ むちゅっ むちゅ むちゅ ー ー ー ー(p8) ふにゃはにゃほにゃ ふわーん ふわーん ふわーん(p9) ぐっぐー ぐっぐー すっす すっす(p10)

以上で3冊の絵本では、オノマトペの使用が高いとみられる。つぎに、3冊の絵本におけるオノマトペがどちらのカテゴリーにあてはまるのかについて分析してみる。

オノマトペ絵本のカテゴリーの認定

ここでは、本調査で取り扱っている3冊の絵本の中に、使用されるオノマトペがカテゴリーによって試みる。

1 ばんだちゃんのオノマトペのカテゴリー

ばんだちゃんのストーリーで、よく使用されているオノマトペは「むしゃむしゃ」「ぶりぶり(スル)」と「ごろんごろん」である。

この絵本において「むしゃむしゃ」「ぶりぶり(スル)」と「ごろんごろん」のような「主人公の動き」を表す言葉または運動する表現だと考えている。「むしゃむしゃ」はばんだちゃんは(竹)を食べるという動作と捉えている。「ぶりぶり」はうんちをしている動作を表し、様子を描写している。そして「ごろんごろん」はスル活用であり、動作や動きを表すオノマトペを指している。

古市(2014)によると、音・声の再現は動物の鳴き声や楽器や演奏の声や自然の音、ものが出す音、人の声、掛け声などである。そうすると、「よいしょよいしょ」という言葉は「音・音声の再現」として考えている。

2 ちゅちゅちゅちゅちゅちゅオノマトペのカテゴリー

この絵本では全ページが動物の鳴き声を表している。この絵本は人間の声以外を表したものであると言われる。前述と同様に「音・音声の再現」のカテゴリーに入る。

3 赤ちゃんのこたばあそび 愛蔵版 だっだぁー

この絵本におけるオノマトペはタイトルの通り「言葉遊び」のカテゴリーに含まれている。なぜかという、この絵本はオノマトペにス

トリーの意味を持たせるよりも言葉のリズムや楽しさを味わうからである。単に「言葉遊び」として捉えることだけではなく、「珍しいオノマトペ」と捉えてもよいと考えている。なぜかという、古市(2014)が指摘したように、普段聞き慣れなかったり、突然口をついて出てくるものや何かから想像して、生まれるものであるから。この絵本はお化けたちの表情から想像し、突然口をついて出てくるものは赤ちゃん言葉であると考えている。

調査結果

絵本のそれぞれの特徴

調査結果を説明する前に、3冊の絵本をそれぞれの特徴について説明する。ここで注目するのは「ストーリー」「キャラクター」と「色」という3点から分析する。

① ばんだちゃんの絵本

ストーリー：オノマトペをしめすだけではなく、ストリート及び展開を持っている絵本である。1ページずつ、ばんだちゃんの活動が描かれている。この絵本では簡単な文で表現されている。

キャラクター：ばんだちゃんとばんだのママである。ばんだの表情が描かれてないが、ばんだちゃんの動きはメインになる。

色：この絵本の特徴は、キャラクターの動作にインパクトのある絵と、ばんだちゃんの生活は簡単なストーリーが描かれている。そして、一番特徴的なのは、竹が大好きなばんだちゃんが竹の木に囲まれている姿がみられる。緑色が一番目立つで、カラフルな絵本であると思っている。

② ちゅちゅちゅちゅちゅちゅの絵本

ストーリー：ストーリーは特にないが、この本は親のあとを楽しそうに追いかける姿が描かれている。並んで走ったり泳いだりする親子の姿をユーモラスに描く¹。これは

¹ <https://www.fukuinkan.co.jp/book/?id=5648>
「閲覧日 2018 年 8 月 10 日」

この本の一番特徴的なものだと考えている。

キャラクター：いろいろな動物の種類が描かれている。ネズミさん、豚さん、さかなさん、たぬきさんとふくろうさんと子たちである。この絵本で一番特徴的なものである。

色：動物の種類によって、背景色が変わる。かなりカラフルな絵本である。

③ 赤ちゃんのこぼあそび 愛蔵版 だっだあー

ストーリー：ストーリーはなし。全ページがオノマトペとお化けたちの顔だけ描かれる。

キャラクター：いろいろな表情しているお化けたち

色：シンプルな色で描かれている絵本

この絵本の特徴は、意味のないその言葉たちはまるで赤ちゃん語のように描かれている。

オノマトペ絵本と乳幼児の反応

絵本名	乳幼児の反応と動き(2-3回までの読みかさせた結果)	注意された部分
① ぱんだちゃん	<ul style="list-style-type: none"> ✓ じっとみている ✓ じっと聞いている ✓ 竹の木に囲まれているぱんだちゃんの絵を触って叩く ✓ 「むしゃむしゃ」と聞くと、読み手の顔を見て、気になりそうな顔をし、笑ってる。 ✓ 「むしゃむしゃ」と聞くと、絵本をみるより、読み手の顔を見ながら、 	<p>「むしゃむしゃ」の言葉</p> <p>「よいしょよいしょ」</p>

	口を動かす。 (食べものを囓むような動き)	
② ちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう	<ul style="list-style-type: none"> ✓ じっとみる ✓ じっと聞いている(次のページに飛ばせたい) ✓ 読み手がふくろうさんの声を真似するとき、乳幼児も「ほー」と声を出せる。 	ふくろうさんの鳴き声「ほー」
③ だっだあー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ じっとみていない ✓ じっと聞いていない ✓ 読み手の表情を一瞬みるだけ ✓ まったく関心がない 	なし

考察

上記の結果からみると、絵本が乳幼児にもっとも反応と動きを引き出すのは「ぱんだちゃん」の絵本であることがわかった。次は「ちゅうちゅうちゅうちゅうちゅう」の絵本である。最後はもっとも無視された絵本が「だっだあー」の絵本である。

それぞれの理由は説明する。「ぱんだちゃん」の絵本では「むしゃむしゃ」という言葉が全ページでほぼよく出てくるからである。そして、「むしゃむしゃ」を発話するときには、ぱんだの食べる姿を想像しながら、食べ物を囓んでいるように表情をし、乳幼児の興味を引き出すと考えている。同じような言葉と動きを繰り返すことをみて、乳幼児も無意識的に囓んでいるような表情をし、絵本を真似しているといえるのではないかと考える。しかも、「むしゃむしゃ」という言葉はペー

ジ毎に出てき、反復性があるから、乳幼児にとって、素早く定着しやすい。

次は、「ちゅうちゅうちゅちゅちゅ」の絵本では、あまり反応を引き出せないが、最後の「ふくろうさん」のページだけに注目されている。「ほーほー」の発音は8っか月の乳幼児の日常でよく発音しているため、真似しやすい声だと考えている。しかし、0歳の乳幼児には動物のことまだ理解していないため、絵が楽しむだけである。

そして、最後は「だっだぁー」の絵本の特徴は意味のないその言葉たちはまるで赤ちゃん語のように言われているが、実際はそうではない。むしろ、反応や動きすら、じっとみられない。この絵本のオノマトペが珍しすぎて、聞き取れないため、関心を持っていないと考えている。おそらく、親が日本語母語話者ではないため、この絵本をどのように読み聞かせたら良いのか。どのように読み方方をしたら良いのかわからないため、乳幼児にも伝わらないという問題点があると考え。また、読み手が普段聞き慣れない珍しいオノマトペ次々出てくるのも、疲れるようになった。

まとめ

以上でオノマトペ絵本と乳幼児認知発達の反応を調査した。0歳の乳幼児にはオノマトペは言葉としてまだ意識していないが、音を楽しめるだけの時期だと考えている。この3冊の絵本からみると、0歳の乳幼児にオノマトペを習得させるためには、カラフルな絵本で反復形のオノマトペが必要だと考えられる。そうすると絵本の「ばんだちゃん」のような、乳幼児の反応と動きが引き出せるようになる。絵本を読み聞かせることを通して、子どもにオノマトペを習得させることが可能になると考えられる。また、読み手は豊かな表情やリズムカルな声など

が必要とされ、オノマトペの力と意識が乳幼児の0歳に至っても伝わるのが期待している。

【参考文献】

古市久子(2014)「こどもの動きを引き出すオノマトペ絵本」『東邦学誌』第43巻第2号 pp.87-104 愛知東邦大学

ナムーラミチヨ(2010)『赤ちゃんのことはあそび 愛蔵版 だっだぁー』主婦の友社

馬場瑞・上原宏・宇津呂・武仁(2017)「子どもの認知発達の反応を誘発する絵本の分類および分析」言語処理学会 第23回年次大会 発表論文集pp.434-437

MAYA MAXX(2018)『こどものとも0.1.2 ばんだちゃん』通巻第277号 福音館書店

村田エミコ(2018)『こどものとも0.1.2 ちゅうちゅうちゅちゅちゅ』通巻第278号 福音館書店

<https://www.fukuinkan.co.jp/book/?id=5648>
「閲覧日2018年8月10日